

業務実績報告書

提出日 2020年1月22日

1. 職名・氏名 准教授 ・ 赤川 晴美

2. 学位 学位 修士、専門分野 社会学、授与機関 淑徳大学、授与年月 1999.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	小児看護学概論(1単位 毎年開講) 学部2年次生(2017年度後期、2018年度後期、2019年度後期)
② 内容・ねらい	小児看護学の基本となる胎生期から思春期までのさまざまな発達段階や健康レベルにある子どもを社会的存在として健やかに育むことを目的に、子どもを正しく理解する見方・とらえ方、及び子どもを健やかに育むための基本的な考え方について学び、看護実践につなげることをめざす内容とした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	「子どもの成長・発達」について、理論をもとに講義するだけでは学生は理解しにくいので、映像教材や実際の育児場面を教材に使って子どもの成長・発達がイメージできるように、子どもを健やかに育むために周りの大人はどう関わるかについて考えられるように工夫した。さらに、実際に身近にいる子どもと家族の了解を得て、「子どもの成長・発達」の視点を使って子どもの健康観察を行う課題を課して、理論と事物や現象が結びつくようにした。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	母子保健学(1単位 毎年開講) 学部2年次生(2017年度後期、2018年度後期、2019年度後期)
② 内容・ねらい	2010年度から、母親の健康増進と子どもの成長・発達は密接な関係があり、母子保健学では母性保健学と小児保健学を一体として捉えられるように新たに設けられた授業科目。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	母性看護学担当教員とオムニバスで展開した。担当した小児保健の内容として、子どもの健康にかかわる社会力、子どもを健やかに育むための基本的な考え方と方法について学生が主体的に学ぶことをめざして毎回小児保健にまつわる実践例を用いて授業を展開した。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	小児看護学(2単位 毎年開講) 学部3年次生(2017年度前期、2018年度前期、2019年度前期)
② 内容・ねらい	さまざまな発達段階や健康障害とその段階にある子どもの適切な看護を行うための基本となる考え方と基本的な看護技術について主体的に学ぶことをねらいとして授業を展開した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	小児看護に必要な考え方と技術の使い方、活かし方を身につけるために、科学的看護論を基盤に典型例による看護過程の展開、及び基礎看護技術との共通性と相異性を視点とした小児看護技術演習による2部構成で講義・演習を展開した。特に、看護は他人のために自己のもてる力を差し出す専門職であり、その力を鍛えるためには他人との認識の突き合わせを行うことが必須と考えるので、グループワークの時間を多く取り入れた。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	小児看護学実習(2単位 毎年開講) 学部3年次生(2017年度前・後期、2018年度後期、2019

<p>年度後期)</p> <p>② 内容・ねらい 子どもの成長発達や健康レベルに応じた看護を実践できる能力を修得することを実習目的とし、子どもの成長発達、及び健康障害が子どもの身体・こころ・社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の修得を到達目標とした。また、臨地実習を自己の看護実践能力を鍛える学習過程と位置づけ、各自が課題意識をもって主体的に取り組むことをめざして展開した。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習目的・実習目標を学生が明確にもって実習に取り組めるよう事前にカンファレンスを行い、学生の意思を確認している。臨地では、無資格者の学生の行為が対象者にとっては看護にならなくてはならないので、学生の言動を観察しつつ、適宜個別指導やカンファレンスを行った。終了時のカンファレンスでは、自己の看護実践を振り返り、看護になったかを評価し、さらなる看護実践能力を鍛えるための課題を明らかにして次の領域に臨めるようにした。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（2単位 毎年開講） 学部4年次生（2017年度通年、2018年度通年、2019年度通年）</p>
<p>② 内容・ねらい 看護実践および看護学を発展させるための科学的思考力を養い、研究的態度を身につけることをねらいとして取り組んだ。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生個々の問題意識を明確にし、文献学習やグループ討論を踏まえながら、自己の研究課題に主体的に取り組めるよう、原則として週1回の面談と10月下旬に中間発表会を行い、学生が相互に刺激し合いながら、研究論文としてまとめるようにすすめた。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次 応用援助技術ゼミ（2単位 毎年開講） 学部3年次生（2017年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 臨地実習を前に、基礎看護技術を確実に身につけ、対象者の状況に応じて基礎看護技術を実践する能力、及びアセスメントする能力を修得することをねらいとした。 この科目は11年度から14年度入学生までの必修科目で、15年度入学生カリキュラム改正に伴い廃止されたが、2017年度に受講生がいた場合は単独開講となっていた。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 3つの段階を設定し、〈使えるレベル〉に達するように授業展開を工夫した。1段階は、既習の基礎看護技術が確実に身につけているか、〈使えるレベル〉に達しているか、教員による確認を受けた後、2段階は、コミュニケーションや観察の基礎看護技術を使って学内の教職員の協力を得て、対象者の状況に応じた健康観察をくり返し実施した。を3段階は、健康観察の視点をを用いて自分自身の健康状態について既存の知識を活用してアセスメントする能力を身につけるとした。2017年度は、14年度入学生2名の受講による単独開講、個別指導を行った。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 母子看護・保健学特論Ⅱ（小児看護学）（4単位 毎年開講） 大学院1年次生（2017年度～2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 母子の健康に関する主要なテーマについて看護学、保健学の両側面からアプローチすること、子どもの発達理論を概観するとともに、認識論から子どもの発達の構造を理解していくこと、看護実践に活かせるよう、事例検討を行い、母子の栄養についても論じることをねらいとした。</p>

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生が主体的に参加することをめざし、教員と学生の双方向の授業展開になるよう講義形式だけでなく、学生が指定した文献等のプレゼンテーションを行い、ディスカッションしながら展開した。2016年度は受講生がいなかったが、2017年度は社会福祉学専攻学生1名の受講により開講した。2018年度は看護学専攻母子看護学領域の学生1名に開講した。2019年度の受講者はいなかった。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 母子看護学演習Ⅱ（小児看護学）（4単位 毎年開講）大学院1年次生（2017年度～2019年度）
② 内容・ねらい 小児看護に関連する文献検討を行うとともに、小児看護における看護現象を研究対象とする研究方法論を身につけるための演習を行うことをねらいとした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 2016年度、2017年度は受講生がいなかった。2018年度は受講生1名のため、複数名でディスカッションしながら研究課題を明確にしていく方がよいと考え、学生が関心ある研究課題について文献検討を行い、研究課題を明確にしていくプロセスを母子看護学演習Ⅰ（母性看護学）と合同授業を展開した（教員2名、受講生2名）。研究計画書作成段階からは、従来どおり分かれて授業を行い、研究計画の内容を検討し、研究発表の準備を進められるよう指導にあたった。2019年度の受講者はいなかった。
① 担当科目名（単位数）主たる配当年次等 母子看護学特別研究（小児看護学）（10単位 毎年開講）大学院2年次生（2017年度～2019年度）
② 内容・ねらい 研究プロセスにそって、計画的に研究を進め、研究論文にまとめることをねらいとした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 母子看護学演習Ⅱ（小児看護学）と並行して行い、院生が見つけた研究課題をより明確にし、研究方法を選択し、定められた時期に研究計画書を作成すること、指定された時期までに倫理審査を受けるまでのプロセスを支援した。倫理審査の承認を得たので、院生は研究計画に基づいてデータ収集を行った。2016年度はデータ分析作業、論文作成をサポートするため、隔週、担当教員2名体制で相談、指導にあたり、院生は修士論文を提出し、修了した。 2017年度、2018年度は受講生がいなかった。2019年度は担当学生に対して研究計画発表、倫理審査申請に向けて指導し、院生は倫理審査委員会の承認を得て調査を開始している。2020年度修士論文提出を目指して研究を進められるよう定期的に指導を続けている。
(2)非常勤講師担当科目
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次
②内容・ねらい
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
(3)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文
② 著書
③ 学会報告等 ・寺島喜代子, 大川洋子, 赤川晴美: 研修企画を経験した中堅看護師のキャリア開発の実際—中小

規模病院研修機能強化プログラムの参加をとおしてー, 第22回日本看護管理学会学術集会, 2018年8月

④ その他の公表実績

・高原美紀子, 酒井明子, 磯見智恵, 安田仲宏, 赤川晴美, 山崎加代子, 橋本直子: COC+特色人材育成部会ワーキンググループ報告書, 看護福祉分野; 原子力災害に対応できる人材の育成, 2017年6月発行

・高原美紀子, 酒井明子, 磯見智恵, 安田仲宏, 赤川晴美, 山崎加代子, 橋本直子: 平成27年度~平成31年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)特色人材育成部会ワーキンググループ活動報告書, 2018年3月発行

・寺島喜代子, 赤川晴美, 大川洋子: 中小規模病院研修機能強化プログラム成果報告書平成26年度~平成27年度, 2019年3月発行

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動

学会での役職など

看護科学研究学会北陸研修会 チューター

学会・分科会の開催運営

(3)研究会活動等

① その他の研究活動参加

・関西子どものケア研究会・福井学習会 世話人、2016年以前から現在に至る

② その活動による成果

・2017年度から2019年度3年間で、「関西子どものケア研究会・福井学習会」を毎年3回、計9回開催した。参加者数は10名~22名程度で、福井県立病院、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、福井赤十字病院等の福井県内の主要病院の看護師、及び看護師養成校の教員に加えて、2017年度には滋賀県の訪問看護ステーション看護師の参加があった。看護師から提出された事例について提出理由が解決できるよう学習会を運営した。事例検討内容では、NICUでの看取りの振り返り、訪問看護師による在宅支援の振り返り、障がいをもつ子どもの家族支援の振り返り、吸入を嫌がる幼児前期の子どもへの看護実践の振り返り等であった。2019年度は2回に分けて「医療ケアの必要な子どもの入院から在宅まで切れ目のない援助を提供するために」と、NICU→GCU→小児病棟→退院後自宅訪問までの看護実践を振り返った。

・2005年5月に立ち上げて13年が経過し、2019年10月に51回目を開催した。検討内容の学びを受け持ちの子どもの看護に活かせたという意見、病棟カンファレンスの視点がデータチェックから子どもの言動の意味づけは?という問いかけが多くなってきたという看護師長からの声など、福井県内で小児看護に携わる看護師の看護力レベルアップに寄与していると考えられる。また、休憩時間を20分程設けているが、その時間が参加病院の情報交換の場にもなっている。毎回検討内容をまとめ資料にして参加者に配布(郵送)している。

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

・平成28年度・29年度県民参加の福井県立大学地域貢献研究「中堅看護師のキャリア発達を支援する能力開発プログラムの構築~中小規模病院の院内研修企画力強化プログラムをとおして」主研究者: 寺島喜代子、研究分担者: 大川洋子、赤川晴美

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 ・福井県立大学教員免許状更新講習「児童・生徒の健康と病気」2016年度以前から、2017年8月まで ・福井県看護協会基礎看護教育検討委員会委員 2017年度前期 ・COC+特色人材育成部門 看護福祉分野 WG メンバー 2017年度～2019年度
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥ その他 ・中小規模病院研修機能強化プログラムの成果報告会開催, 2018年3月25日(日), 福井県立大学共通講義棟 208 講義室
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 ・文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) 特色人材育成部会看護福祉分野ワーキング企画(ワーキンググループ長;高原美紀子, 構成メンバー;赤川晴美, 山崎加代子, 吉弘淳一, 安田仲弘, 月田佳寿美), 公開講座「地域医療を支える看護と福祉の連携」開催, 2018年12月22日(土), 福井県立大学共通講義棟 111 講義室
② 社会人・高校生向けの講座 ・オープンキャンパス 2017 「医療を受ける子どもへのプレパレーション」2017年8月 ・平成28年度開放講義福井県立武生高等学校「大学模擬授業」2018年7月
③ その他
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等)

6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
(2)委員会・チーム活動
<大学全体> 教育研究委員会委員 2017年度～2018年度 COC ワーキンググループメンバー 2017年度～2018年度 大学連携・地域志向科目部会メンバー 2019年度 福井県立大学論集査読委員 2018年度 <看護福祉学部、及び看護学科内委員> 看護学科カリキュラム委員会委員 2016年度以前から現在に至る 看護学科看護学教育モデル・コア・カリキュラムに関するワーキングメンバー 2017年度～2019年度 看護学科3年次生学年担当 2019年度 看護学科教務担当 2017年度～2018年度 看護福祉学研究科看護学専攻教務担当 2017年度～2018年度
(3)学内行事への参加 ・全学ミーティング参加 2017年度～2019年度
(4)その他、自発的活動など